比較文学研究室共催　国際ワークショップ
「夏目漱石『明暗』の英訳を通して考える」

2012 年 9 月 13 日(木)、14 日（金）
戸山キャンパス 39 号館第 5 会議室

〈早稲田大学総合人文科学研究センター〉早稲田大学比較文学研究室は、〈重点領域研究〉早稲田大学国際日本文学・文化研究所との共催のかたちで、国際ワークショップ「夏目漱石『明暗』の英訳を通して考える」を、2012 年 9 月 13 日（木）・14 日（金）、いずれも午後 2 時から 5 時まで、戸山キャンパス 39 号館第 5 会議室で開催した。カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授のジョン・ネイスン John Nathan 先生は、三島由紀夫・大江健三郎の見事な翻訳で知られているが、現在夏目漱石の『明暗』の新しい翻訳 Light and Dark を完成しつつある。先生の来日を機に、早稲田にお招きし、多くの示唆をいただけることになったのはうれしい。参加者はあらかじめ決められた幾つかの『明暗』の一節を英訳し、ワークショップの時に各自が英訳してみた試みを互いに批評することによって、『明暗』が孕んでいる英訳上の問題、そこから割り出される現代日本文学の翻訳に当たってのいくつかの根本問題に触れていただいた。基調講演「翻訳という営みにおける忠実さ」の後、英訳を試みた大学院生の試訳を先生がていねいに添削され、問題点を話し合うことが出来た。先生の基調講演と、4 名の大学院生の翻訳の最終稿は、来年 3 月刊行の「比較文学年誌」に掲載される予定である。（報告　中島国彦）